

【八王子市教育委員会教育目標】

「あふれる元気」 健康な心身・活力
 「かがやく心」 豊かな知性と感性・個性
 「仲間とともに」 協調性・社会性
 「はばたけ未来へ」 意欲・積極性
 の育成に向けた教育を推進する。



【教育目標】

すすんで学習し、ねばり強く努力する人
 みんなと協力し、仕事に責任を持つ人
 豊かな心を持ち、正しい行動のできる人



1 地域の実態

学校の活動を理解して支援してくれる保護者が多い。学校への関心が高まると共に、要求レベルも上がってきている

2 地域・保護者の期待や願い

規則的正しい生活習慣と基礎学力を身につける

3 期待される生徒像

基礎学力を身につけ、将来の展望をしっかりと持って学校生活を送れる生徒

《本校の現状》（「八王子市学力定着度調査」「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から分析できること）
 学力調査の結果より、観点別能力でみると、どの教科も関心・意欲・態度は、都・市の平均に近い。しかし、他の能力で平均に足りないものがある。教科ごと具体的には、国語では、話す・聞く・書く能力、数学では、見方・考え方・知識・理解、理科では、科学的思考、社会は知識・理解、英語では理解・表現、知識・理解の観点である。したがって、継続して生徒の関心・意欲・態度を伸ばす指導をする一方で、他の能力の向上をめざす指導の工夫が重要課題であることを示している。そのためには、基本的学習習慣を確立させ学ぶ意欲を向上させるとともに指導内容、指導方法、指導体制の工夫、評価方法の工夫等授業改善をすすめることが必要である。

八王子学力定着度調査より、国語に関しては、話す力・聞く力が大きく不足している。また、数学に関しては、数学的な見方や考え方などの観点や基礎分野に比べて、応用分野の到達度が低い。このことは、第一に、人の話や問題の意図を理解することが重要であることを示している。次にさまざまな視点より思考して、知識として身につけることが大事であることを示している。また、学習意識調査によると、目標にむかって何をどうしたらいいのかという問題解決能力や社会的実践力、豊かな基礎体験が育っていない。「総合的な学習の時間」を活用して体験学習を進め、問題解決能力、発表する力、聞く力を育成することが必要である。したがって学習指導・進路指導の充実を図るとともに、家庭との連携をすすめ、生徒の学びを支援することが大切である。



《本年度本校における学力向上のための重点方針》

基礎学力の定着と進路指導（生き方）の充実
 学習、進路指導の充実
 ・授業時数の確保
 ・指導法の工夫と改善

基本的生活習慣の定着
 ・朝の10分間読書の実施
 ・学期ごとの学習ガイダンスの実施



《本年度の学力向上の具体策》（いつまでに、どの程度）

全学年朝の10分間読書の実施（通年実施）
 学期ごとの学習ガイダンスの実施（各学期初めに実施）
 少人数授業（数学）、TT（保健体育）の実施、学習活動補助者の活用による個に応じた授業の展開（通年実施）
 定期テスト前の質問教室の実施（年5回）
 夏季休業中の補習教室の実施（全学年）
 保護者対象の進路懇談会の実施（年4回）
 都立高校での体験授業（3学年）
 職場訪問、職業体験の実施（1・2年）

《学力向上の成果の検証及びその評価方法》

国語の授業、考査による評価（読む力）
 考査ごとの目標の設定、評価（各学年で）
 生徒へのアンケートの実施（教科で）
 学習計画表の作成、事前事後指導（各学年で）
 参加者へのアンケートの実施（各学年で）
 参加者へのアンケートの実施（各学年で）
 生徒へのアンケートの実施（3学年で）
 生徒へのアンケートの実施（1・2学年で）

教科等の現状と課題及び授業の改善点

(第1学年)

教科等	現状と課題	改善策	教科等	現状と課題	改善策
国語	個々の生徒によって、かなり学習の定着度の差があると思われる。授業に対する取り組み・姿勢にも差がある。素直な姿勢を継続させ、国語の課題に取り組む意義を理解させ、やる気を喚起させるような工夫が必要である。	単元毎の学習課題や、学習の目的・意義を分かりやすく明示する。また、身近なことから、学習したことが活用できるように心がけるとともに、努力が評価されることをさまざまな場面で意識づけていく。生徒の現状をしっかりと確認しながら、基礎の徹底を行う。	美術	授業に取り組むことがほとんどできない生徒がいる。また多くは作業に当たっているが忘れ物が多い	基本的な授業活動が行えるよう、個別かつ継続的な指導を行うとともに、全体に対しても課題期限や忘れものに関するルールを明示し、指導を徹底させる。
社会	小学校で学習した都道府県名などには、定着度合いに差があり、全員に基礎的知識を身に付けさせることが課題である。また身近な地域や都道府県、世界の国などの調べ方がわからない生徒が多いので、身に付けさせる必要がある。	地理的分野ではワーク、ドリルによる作業的学習、「八王子市内調査」による体験的学習を取り入れることにより、学び方を身に付けさせる。また、都道府県の配置、用語の意味など反復して学習することにより、基礎的な知識理解力を向上させる。	技術・家庭	集中力の持続にかけるが、授業に対する関心・意欲がある。書くことを苦手とする生徒が若干いる。書き取りの指導を工夫して行う。	生徒自身の活動する機会を多く取り入れて、自信や積極性を持たせる。その日の授業の目標を明確にして作業の進度・内容の理解が自己評価できるように工夫する。
数学	* 少人数授業の特性を生かす内容を考えること。 * 関心や意欲の薄い生徒への対応が必要。 * 基礎基本の定着を徹底する。	* 少人数ならではの取り組みを積極的に取り入れる。 * 話し合いや教え合いの工夫。	保健体育	個々の生徒によって、興味・関心を示す単元に差があり、授業に対する取り組み・姿勢にも差が表れる。話をきちんと聞く事ができず、正しい判断ができない生徒も多い。学習の課題や意義をはっきりさせ、みんなと協力して授業に取り組むやる気を起こさせる工夫が必要である。	生徒の興味関心を示す単元である球技の活動の動きを球技以外の単元にも取り入れる。また、みんなと協力できるようグループを作り、グループ毎の準備や練習に心がける。
理科	話を聞く態度が十分に育っていないので、授業に関心を持たせることが課題である。また、観察や実験などが時間内に終わらない生徒も見受けられるので、時間内に観察や実験を終了させて、提出物の提出が確実にできるような工夫していくことも課題である。	意欲的に取り組む観察や実験の時間を多く設定し、まとめを簡潔に行うように指導計画を検討する。また記入しやすくまとめやすいようにワークシートを工夫する。	外国語	「話す」「聞く」の指導は授業で充分成果が出ているが、「書く」指導は授業内のみでは不十分であった。	2冊のノート作成を徹底させる。小テストの回数を増やすことで、学習習慣を付ける。
音楽	話を聞く態度が十分に育っていないので、授業に集中させ、関心を持たせることが課題である。音楽の課題を意識させ、継続させるような工夫が必要である。	生徒の現状をしっかりと認識しながら、学習の課題、目的をはっきりさせる。音楽の楽しさを感じられる場面をできるだけ多く設定する。	総合的な学習の時間	校外学習に関して、集団行動・班行動を中心とした学習では親睦が図られたが、規律正しい行動を身に付ける点では不十分であった。体育祭の盆踊り・諏訪太鼓演奏では、地域の方と協力して、それぞれの役割を果たしていたが、自主的・主体的に行動する場面が少なかった。	生徒が、ひとり一人責任を果たした行動ができるような場面を多く設定して経験させ、自主的・主体的に考えて行動できるよう指導内容を改善していく。さまざまな活動を通して、班・グループ内の協力・行動する力を養えるようにしていく。
その他(道徳・特別活動等) ・望ましい生活習慣を身につけさせる。 ・人とのかわり(心と心のつながり)、感謝、思いやりを深める。 ・集団生活の中の役割や責任を自覚し、集団生活の向上に努めるような課題を設定したり、目標を掲げ、特別活動を計画、展開していく。					

教科等の現状と課題及び授業の改善点

(第2学年)

教科等	現状と課題	改善策	教科等	現状と課題	改善策
国語	二年生としては学習意欲が上がっている。学習課題を把握し、取り組んでいるが、学習課題を把握しきれない生徒や、基礎的な部分が未定着な生徒もいる。課題をはっきりさせ、継続した流れ、取り組みをを意識させる必要がある。	単元毎の学習課題や、学習の目的・意義をはっきり明示する。また、学習したことが活用できるような発問などを心がけるとともに、小テストや課題への取り組みを積み上げることが、成果につながり、評価されていくことを意識づけていく。生徒の現状をしっかりと確認しながら、基礎の徹底をはかる。	美術	興味や関心は低くはないのだが、授業への取り組みが持続できない生徒がいる。	毎時間のノルマ、あるいは目標を明確にし、達成感を味わわせるとともに、問題生徒を早い段階で洗い出し、早期に底上げの指導を行う。
社会	社会科、特に歴史的分野は、他分野に比べ、体験的、作業的な学習をおこなう機会が少なく、年代や人物名、事件名を覚えればよいという考えを持つ生徒が多い。単なる暗記ではなく、考えさせる授業を行う必要がある。	歴史的分野の学習は、単なる暗記ではなく、歴史事象が時間的、空間的な結びつきにより成り立っていることを理解させるため、授業において「なぜ」「なるほど」をキーワードとして取り組む。	技術・家庭	授業に対する関心・意欲がある生徒が多い。実習や作業には興味が高く、積極的に作業素する生徒が多いので、目標及び課題を達成した生徒には、応用的な課題を与えてレベルアップを図っていく。	学習内容を細分化し、小さなセンテンスの中での達成感、成就感をもたせながら関心を高める。(評価カード、作業の進度カードの活用) 授業の目標を明確にして自己評価しやすいようにする。
数学	* 授業に取り組めない生徒、数学に関心の持てない生徒、学習内容の定着が不十分な生徒の指導が課題である。	少人数授業の形態を生かして、丁寧な説明及び適切な多くの練習問題により知識理解と基本的な計算などの表現処理の能力をつける。	保健体育	素早い集合などの集団行動の基礎を身につけさせる指導の工夫や、指示をきちんと聞かせる工夫が必要である。今後の課題として、授業に興味・関心を持たせることや生徒に対し、より明確な指示を出す、次の行動に移れるようにさせなければならないと考える。	活動自体は、どの生徒も生き生きと動いている。その前の準備・指示の場で「どこで・何を・どんな風に」活動するのか、また動きの中で「何を学ばせたいのか・どこにポイントを置くのか」を生徒に分かりやすく伝える。また、学習カードを利用し記入しやすくし、まとめやすくする必要がある。
理科	理科を苦手とする生徒に対して、いかに授業に関心を持たせるかが課題である。また、基本的な聞く態度を育成することも課題である。	生徒の興味関心を高める、理科に関する話題や演示実験を取り入れる。また、生徒実験・観察を取り入れる。授業で心の準備を促す。	外国語	よく声を出し、話も聞かすが、与えられた課題をやるのが精いっぱいである。生徒に英語を話させる場面が少ない。	できるだけ英語で指示を出したり、生徒とやりとりをしてコミュニケーション能力を高める。
音楽	音楽に対する興味・関心を持って授業に前向きに取り組もうとする生徒と、なかなか取り組めない生徒の差が生じてきている。	授業の中で、演奏に耳を傾ける場面を設定する。授業での充実感・達成感を味わえるようにグループでの活動を通して、個々の生徒が前向きに取り組めるような声掛けをする。	総合的な学習の時間	個々の課題設定について、深めることが不十分であった。取り組む段階で、計画的に内容を深めていくことが充分にできない場面が見られる。	課題解決のための見通しを持った取り組みができるように、計画を綿密に立て、学習内容を深めていけるようにする。
<p>その他(道徳・特別活動等)</p> <p>道徳では、全校道徳の取り組みを柱としながら、人としての生き方を考える機会を設ける。 総合的な学習の時間を中心として行う職場(職業)体験学習なども道徳・特別活動と連携させて取り組んでいく。</p>					

教科等の現状と課題及び授業の改善点

(第3学年)

教科等	現状と課題	改善策	教科等	現状と課題	改善策
国語	進路に向けて学習意欲は上がっているが、「国語の力をつけるために何が必要か」といった点で、学習課題を把握しきれない生徒や、基礎的な部分が未定着な生徒も多い。課題をはっきりさせ、継続した流れ取り組みを意識させる必要がある。また、可能な限りかみくだき、さらに分かりやすい解説の工夫が必要である。	学習意欲の高い生徒を厭きさせず、基礎学力の不十分な生徒を引き上げることを目的とし、小テストや課題達成の評価を明確にする。生徒の現状をしっかりと確認しながら、基礎の徹底をはかる。	美術	内容以前に授業に取り組むこと自体を行えない生徒がいる。	毎回やるべき小テーマを明確にし、最低限の目標を達成させることで基本的な授業態度を身につけさせたい。
社会	勉強はテストのためという意識が強い生徒が多く、定期テスト前は暗記するが、すぐに忘れてしまうという生徒も目立つ。単発の知識ではなく、様々な事象が関連しあっていることをつかませる指導の工夫が必要である。	公民的分野では、学習内容をただ単に受験のための知識として覚えさせるのではなく、最新のニュースなどを交えながら政治も経済も、現在の生活と密接に関わっていることを実感させながら理解させる。	技術・家庭	授業に対する関心意欲が高まりつつ、提出物に関しても積極的にやろうとしている。 指示待ちで考えることをあまりしないが、支援した場合には作業をよく行える。自力で理解し工夫する力が弱いので、その力を養えるように指導方法に工夫が必要である。	作業する際には容易にわかりやすくするために、具体的に作品や標本を呈示してイメージ、工夫する力を養えるようにする。 習熟度別、進度別に作業を行なうことができるように工夫する。 (進度カードの活用・進度別のせつめいなど)作業の目標・目当てを明確に呈示し、授業に対する意欲をもたせる。
数学	* 少人数授業・習熟度別授業の特性を生かす内容を考えること。 * 意欲的に取り組ませる授業内容の工夫。 * 基礎学力の定着。	* 習熟度別クラスの編成を工夫し、それぞれのクラスにあった教材を考える。 * どのクラスの生徒にも自信を持たせる。 * 教材の工夫により、興味関心を高めていく。(特にCクラス) * 基礎学力定着のため、小テストなどの工夫。	保健体育	学習意欲は上がっているが、得意・不得意で単元に対しての興味・関心が左右される。また、学習課題を把握しきれない生徒も多い。課題をはっきりさせ、動作のポイントを意識させる必要がある。	できる・できないということよりも、動きの特性を知り、理解することや、実際に体を動かしながら技能を習得させるようにする。また、ひとつひとつの動作の見本を見せながら、できなくても気にしないでやれる雰囲気作りにも心がける。
理科	理科の基本的な用語や法則の定着や一般的な理科の知識が不足している生徒に対して、基礎学力を向上させることが課題である。基礎的な実験・観察技能が不足していたり、問題に対して自分の考えを表現したり、みんなの前で発表することが苦手とする意識を減らすことが課題である。	補充のプリントを行い、基本的な事項を定着をはかる。できるだけ実験・観察を取り入れ、間違った意見でも気にしないで発表できる雰囲気心を心がける。自分の意見を記入する小さな紙を書かせ、読み上げる。定期的なノート点検などを行い、ノートの取り方などを指導していく。	外国語	学力差がかなり出ていて、英語に対する苦手意識を持っている生徒も少なくない。基本となる教科書の本文を徹底して覚えさせ、基礎学力の定着を図っていく。	受験をふまえ、プリント等により英語を得意とする生徒の力も伸ばしていく。 リスニングは家庭学習ではやりにくいので、継続的に続けていく。
音楽	表現・技能の育成に取り組んできたが、少しずつではあるが積み上げられてきているものの、限られた時間の中で能率よく指導できないところがあった。	楽譜を見る、音楽を聴く、音楽を感じる指導の場面を多く設定することにより、表現能力を高めていく。	総合的な学習の時間	個々の課題設定、解決について十分に深められない部分が見られる。	修学旅行で、自分自身で見たり、聞いたり、体験したこと、新しく知ったことを自分でまとめ、他に伝える経験を通して、課題設定・解決能力を高めていけるようにする。
<p>その他(道徳・特別活動等)</p> <p>年間計画に沿って、テーマに取り組みながら、全校道徳においては世界の国々の現状に目を向け、自分の視野を広げ、深めていけるように指導する。自分自身の進路について、上級学校訪問、体験授業等を通して考えを深めていけるような取り組みを重ねていく。</p>					